



中尊寺 金色堂(岩手県平泉町)  
絵：平野 敬則

## 世界遺産になった平泉 —— 東北復興のシンボル 私のふるさと

千葉 絢子  
ちば じゅんこ  
岩手めんこいテレビアナウンサー

1978年岩手県平泉町生まれ。慶応義塾大学法学部政治学科卒業後、2001年、フジテレビ系列の姉岩手めんこいテレビに入社。アナウンサー兼報道記者として警察・県政・国政関連の取材もしながら、昨年3月まで10年間「mitスーパーニュース」キャスターを務めたほか、3月の東日本大震災では連日24時間体制をとった緊急報道特別番組で被害を伝え続けた。現在は土曜日の情報番組「はちきゅん」でMCを務める。



鐘の音はあらゆる世界に分けへだてなく響き渡り  
みな平等に苦しみを抜き去り 安楽を与える  
官軍も蝦夷も度重なる戦で命を落としたりした者は  
古来幾多あったろうか  
いや みちのくにおいては 人だけではなく  
けものや鳥、魚、貝の類も  
昔も今もはかりしれないほど犠牲になっている  
靈魂はあの世へ去ったが  
朽ちた骨は塵となって今なおこの世に残る  
鐘の音が大地を動かす毎に  
罪なく犠牲になった霊が浄土に導かれますように

これは、平泉に仏教文化を築いた奥州藤原氏初代・清衡が中尊寺の建立に込めた供養願文です。清衡は、幼い頃より数々の戦乱で父や妻子・友人や家臣を失ったことに深く心を痛め、御仏の教えを信仰する平安な国を平泉に築くことを目指します。その思いは後に子孫に受け継がれ、平泉は100年もの間、争いとは無縁で栄え、京都に次ぐ華やぎを見せていたといえます。

清衡の曾孫にあたる泰衡が平泉を治めてい

た頃に源頼朝の軍により平泉は滅亡し、主要な寺院や文化財は灰燼に帰したため、今は金色堂をはじめとするわずかな文化財と地下の遺構から当時の姿を想像することしかできません。けれども、すり減った下駄や食器、箸や烏帽子など数々の出土品に、この街に暮らしていた人々の息吹を感じることが出来ます。突然日常を失った当時の平泉の人たちに思いを馳せる時、大津波の直後に陸前高田市で目にした、足元に転がる食器やピアノのペダル、家の屋根に引掛かっているペビーカー、未開封の新生児用紙おむつが同様の光景に映り、半年経っても忘れることはできません。

私は、平泉のなかでも世界遺産に登録された遺跡の一部に生まれ育ちました。地上にあったはずの建物はもちろんすでに失われています。しかし、平泉を訪れたならばしばし目をつぶり、耳を澄ませてください。清衡の願文に見られる魂の平安を願う思いは、これから先にこの世に生まれる何人にも侵すことのできない世界遺産であり、いまこそ東北の復興の拠り所となるべき導きであると、確かに信じられるのです。



毛越寺境内 浄土庭園(岩手県平泉町)